

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 利 用 者： 90代 女性

病 名： 心筋梗塞 高血圧 尿路感染症

利用サービス： 長期入所

経 過：独居で通所サービスやショートステイを利用していた。介護困難となり長期入所。入所後にコロナを発症し身体機能が低下、笑顔も減少した。ご家族の思いを傾聴し、多職種で連携してご本人の嗜好を活かした活動を行った結果、笑顔も増え、活動量が回復。ご本人の好みを取り入れた多職種連携が、身体・心理面の改善と家族ケアに繋がった事例。

内 容

長年一人暮らしを続けながら通所サービスを利用し、穏やかな日々を過ごされていたご本人。いつも魅力的な笑顔で、私たちスタッフの心を和ませてくださいました。

しかし、体調の変化により身体機能が低下し、自宅での生活が難しくなったため、当施設へご入所されました。

その後、新型コロナ感染を契機に体調が不安定となり、ベッドで過ごす時間が増えるにつれて、笑顔や会話が減少。ご自身から食事を摂ることや尿意を伝えることも少なくなりました。ご家族は「独りで生活させてしまった」「何もしてあげられなかった」と繰り返し悔やまれ、「最期まで施設で寄り添いたい」と施設でのお看取りを希望されました。

私たちはご本人が再び笑顔を見せてくださることを願い、「どうすれば“その人らしさ”を取り戻せるか」をご家族と共に考えました。話を伺う中で、ご本人が「うどんが大好き」「歌うことが好き」ということが分かり、この“好き”を大切な手がかりとしました。

介護・リハビリ・栄養科、そしてご家族と情報を共有し、多職種連携の支援を開始。リハビリや介護の時間には、ご本人の好きな歌と一緒に口ずさみ、小さな反応も見逃さず、できたことは皆で喜び合いました。栄養科では温かいうどんを用意し、久しぶりに自ら箸を持って「美味しい」と笑顔を見せてくださった瞬間、職員もご家族も大きな感動に包まれました。

その後、ご本人の表情は徐々に明るくなり笑顔も戻り、施設内のイベントにも参加。通所時代のスタッフとの再会では、周囲に笑顔の輪が広がり、ご家族は「笑顔が見られて本当に嬉しい」と涙を流されまし

た。

この経験を通し、多職種が連携し、ご本人の“好き”に注目することが、“その人らしい生活”や“笑顔”を支える鍵であると改めて実感しました。ご本人の人生のひとときが、ここ「しおさい」でキラキラと輝いたかけがえのない時間となりました。

【看護】

入所後の安定した生活リズムの確保と健康管理を行った。ご本人の関心に応じた支援の情報を多職種で共有した。

【介護】

ご本人の好みに合わせた活動への参加を支援した。歌や好きな食べ物を取り入れ、できたことを褒めて共有することで、笑顔や自発的な行動の促進を図った。

【リハビリ】

身体機能低下に対応した運動や機能訓練を計画し、歌や楽しい要素を取り入れることで、運動意欲を引き出した。

【栄養】

試行的に好物のうどんを取り入れることで、自発的に食事を摂る意欲を引き出した。